

天国からの手紙

2005(平成17)年7月2日鑑賞(ホクテンザ1)

★★★★



監督=キム・ジョンゴン/出演=シン・ハギョン/キム・ヒソン/パク・ソヒョン/キム・ミンジュン/キム・インゴン (エスピーオー配給/2003年韓国映画/106分)

……典型的な美しく悲しい韓流ラブストーリーだが、この映画の特徴は、男性の純粹さと弱さに対して、美しいヒロインのしたたかさと強さが鮮烈なこと……？ もっとも、その割にはヒロインの選択の結果は……？ 近年の『マイ・ブラザー』（04年）でも気弱な兄貴役を好演したシン・ハギョンは純粹で素朴な田舎の青年役がいかにもピッタリ。梅雨が明ければ夏本番。たまには星がきらめく夜空を眺めて、火星を探し（望遠鏡がなければその姿だけでも想像し）火星に手紙を送り届ける夢をみるのもいいのでは……？

父は火星に、そして火星から手紙が……？

映画の冒頭が美しい。田舎の1軒の家が登場し、そこには天体望遠鏡で火星を眺めている父親と小さな女の子のソヒが……？ セキこんでいた父親は、近々火星に旅立つことをソヒに伝えたが、その話が現実に……。しかしソヒはさびしくなかった。なぜならソヒのもとには、火星に旅立った父親から頻繁に手紙が送られてきたから……。

手紙の主は？

火星からの手紙をソヒに送り続けたのは、ソヒの近所に住む幼なじみのスンジェ。ポストから手紙を抜きとろうとしていたスンジェを見つけて、嚴重注意(?)した郵便配達のおじさんだったが、スンジェのやさしい気持を知ったこのおじさんは、その後スンジェに対して全面協力。大人と子供の二人三脚による、ソヒの自宅と火星との文通が始まり、以降ずっと継続することに……。

しかし、それは永久に続くはずのものではなく、なぜかソヒは突然おばさんに引き取られることになり、ソウルの学校に転校していくことに……。その結果、ソヒの家にはおばあちゃん1人だけが。しかし、それでもスンジェはずっとソヒのことを思い続け手紙を……。おばあちゃんのもとには、いつしか手紙をよさなくなったソヒにかわって、今は故郷の村で郵便配達員となっているスンジェがソヒの偽モノ(?)として、おばあちゃん宛に心暖まる手紙を……。もちろん、おばあちゃんはこれを宝物のように大切に保管……。そして、こんなスンジェが、いつもソヒと文通しているような気持ちになっていたのは当然……?

美しく悲しい韓流ラブストーリーだが……

この映画は典型的な美しく悲しい韓流ラブストーリーだが、この映画のヒーローとヒロインを比べてみると、かなり女性上位の姿が浮き彫りに……。すなわち、今も田舎にとどまり郵便配達の仕事に従事しているスンジェ(シン・ハギョン)は、ホントに純粋で素朴な田舎の好青年。他方、家庭の事情でソウルに転校し大人になったヒロインのソヒ(キム・ヒソン)は、美しいだけでなく、都会での厳しい現実の中、したたかに生き成長してきた。そんな2人が大人になってやっと田舎の村で再会した時、2人は一瞬いい雰囲気になったが、さて……?

ソヒの本命はどちら?

ソヒがトップで入社した一流会社には、韓国では珍しく人脈の力ではなく実力で理事の地位についている素敵な若手幹部がいた。そしてソヒは、理事でありながら気さくに社員食堂でランチを食べるこんな男性から素敵な恋のアプローチを受けることに……。たとえ故郷に手紙のやりとりを続けていた幼なじみがいたとしても、こうなりゃ、ふつうの女であれば、誰でも……。まして上昇志向の意欲が強いソヒは、このアプローチにイチコロ……。しかし、ソヒにとってホントの本命は、この素敵なエリート幹部の男性なのかそれとも田舎でソヒの帰りをじっと待っているスンジェなのか……。果たしてそれはどちらなのだろうか……?

田舎と都会

日本でも都会に憧れる若者が多いが、都会で成功するのはごく一部だけ……？
しかし韓国の若者も日本と同じく、いやそれ以上に都会志向が強いはず……。この映画の舞台となった田舎の村がどこにあるのか知らないが、雪のシーンが結構多いところを観ると、ソウルよりずっと北にある山岳地帯の田舎村……？

こんな田舎村には、銀行もなくインターネットも使えないため（？）、既にソウルの一流企業の第一線でバリバリやっているキャリアウーマンのソヒにとっては、久しぶりに帰ってきて逆にも落ち着かず、安住の地ではなくなっていた……？

2人だけの思い出の場所は？

誰にでも子供時代の淡い初恋の思い出があるはず。そしてその場合、その思い出の場所やその場所での行動はいくつになってもはっきり覚えているはず……。スンジエとソヒの2人にとってそんな2人だけの子供時代の思い出の場所は、山を流れる川の側にある小さな小屋。大雨の中で取り残され、小屋の中で心細い思いで過ごしながら助けを待っていた2人だったが、そんな中スンジエがソヒを勇気づけるために思いついたのは、九九を大声で唱えること。2×2が4、2×3が6、2×4が8……と大声で唱えていくことによって、2人は不安な気持ちを懸命に発散させながら助けを待ったが、その結果は……？ 十数年ぶりに故郷に帰って来たソヒを迎えたスンジエは、はしゃぎ過ぎて自転車で転んだ後、当然のようにこの思い出の小屋へ。そんないい雰囲気になった2人だったが……？

美しくも悲しいラストシーンの受け止め方は？

スンジエが住む村にはダム建設に反対する住民運動が起きているものの、その結果は予想され、「長いものには巻かれろ」という郵便局長のアドバイス（？）にも一理が……？ ダムのために村全体が水没してしまうのは悲しいことだが、残念ながらそれが現実。この映画には、そんなダム建設にまつわる水のイメージとともに、もう1つ川のイメージがストーリー展開の中に実に印象的に配置されている。そして、そんな川のイメージが美しくも悲しいラストシーンに結びついていく。さて、あなたはそれをどのように受け止めるだろうか？ そしてあなたは、スンジエ派？ それともソヒ派……？

2005(平成17)年7月4日記